

英、EU離脱通知 専門家に聞く

英国が欧州連合（EU）に離脱を正式通知した。これから始まる離脱交渉の行方とその影響を、英国とベルギーで専門家に聞いた。（1面参照）



英への配慮 交渉次第

英オックスフォード大のカリブソ・ニコライディス教授（国際関係学）の話
交渉で英国が得られる利益は欧州連合加盟国以上のものにはならない。（加盟の負担を逃れつつ恩恵を受ける）「ただ乗り」は不可能だ。一方、スイスなどEU

非加盟国がEUと現在結んでいる協定よりは、有利な条件が与えられるだろう。例えば英国には単一市場への（分野別の）アクセスと、移民の流入制限が同時に認められる可能性がある。移民受け入れと単一市場参加は本来セットで、ス

イスなどには認められていない。40年以上、共にEUをつくってきたこと、離脱後もEUにとり重要な国である点から、英国は配慮を受けてしかるべきだ。ただ、英国がEUへの一切の支出を拒んだり、投資誘致のために法人税率を

（不当に）引き下げようとしたりするなど高圧的になれば「配慮は不要だ」となるだろう。交渉は双方が合意可能な原則に沿って行うことが必要だ。例えば多数の移民受け入れで英国の負担が著しく増していることに対し

「移動の自由」の例外扱いが認められ得る。この場合「著しい負担が、例外として認められる理由にあたる」。

英国は離脱後に非常に強くなりうるし、（世界の）人々は英国の成功を望んでいる。ただ、世界が英国に何でも与えてくれるわけではない。離脱すれば多くのことが可能になるとの考えは幻想だ。（ロンドン共同）



EU法改正 混乱必至

ベルギー・ヘント大のヘンドリック・ボス教授（欧州政治）の話
英国も欧州連合も離脱を巡る混乱は不利益をもたらすので避けたいたはずだが、混乱は必至だ。英国が関係するEU法は2万以上あり、40年以上の絡み合った関係を整理しなけ

ればならない。当面の交渉で最も難しい問題は（英国が難色を示す最大）600億（約7兆2千億円）に上る離脱費用の支払いだ。基本的な離脱協定は双方とも2年以内の締結を図るが、離脱後の貿易関係の協議は2年ではま

ず終わらない。移行期間を巡る協定も極めて複雑なものとなるだろう。EUにとっては、英国の離脱は残る加盟27カ国が結束を強める好機になるかもしれない。例えば（英国が反対してきた）欧州軍創設へ向けた協議はより容易に

なる。英国の離脱でEU内のパワーバランスは変わるが、驚くようなことも起きないだろう。英国のようなEU統合に懐疑的な主張は今やポーランドなども発しているからだ。各国政府は、欧州単一市

場に依存していることを理解しているため、英国に続く離脱国が出るとは思われない。

各国は難民やテロ、気候変動などの課題に個別で対処できない。ポーランドやハンガリーはEUに対して敵しい態度を示すが、EUからかなり大きな恩恵も得ており、大混乱を招く離脱に踏み切ることはないだろう。（ブリュッセル共同）